

新春雑感 七草粥

芹 薺 御形 繁縷 仏の座 菰 蘿蔔 これぞ七草

七草粥を食べながら、ロータリー運動の益々の発展と、コロナ禍の一日も早い終息を願いました。

コロナ禍によって、ロータリー運動が事実上休止してから、1 年が過ぎようとしています。少しでも皆様のお役に立とうとして、ZOOM によるセミナーを開催しており、参加者も日を追うごとに増えていることを感謝しております。

感染者は日ごとに激増し、その傾向は、ワクチンの接種が終わるまで続くことを覚悟せざるを得ません。たとえ一旦終息したとしても、インフルエンザと同様に、コロナと共存していく時代が続くことでしょう。

IT 音痴世界一が日本の誇りです。これを機会に、この汚名を返上しようではありませんか。パソコンを駆使すれば、コロナ感染の心配もなく、時と場所を選ばずに、さらに最良のコスト・パフォーマンスで意思疎通が図れるのです。クラブの若い会員の出番を作ってください。フレッシュな七草粥の活躍を期待しております。

ロータリーには変えなければならないものと、変えてはならないものがあります。

変えなければならないものは組織の管理です。これを怠ると必ずと言っていいほど制度疲労を起こします。ロータリーは巨大な組織に発展しました。「拡大」を目的とする国際ロータリーにとっては大成功です。次々と新しい目的を設定して、肥大を繰り返していきます。世界中のボランティア組織を統合する「株式会社国際ロータリー」を目指している模様です。

2030 年を目標に大きな組織改革が予定されている模様です。ガバナー制度が廃止されるとか、言語・文化・宗教を勘案したリージョナル・カウンシルを設けて、そこに一定の自治権を認めるとか、いろいろな噂が入ってきますが、詳細は不明です。国際ロータリーの組織改革ですから、理にかなった改革ならば、規定審議会の決定に従わざるを得ないでしょう。

その一方で、変えてはならないものは、ロータリーの奉仕理念です。

弱肉強食の場であった 20 世紀初頭の経済界に、継続的に利益をもたらす顧客を確保することによって事業を発展させ、事業主、従業員、顧客その他の事業に関係する人全体に利益をもたらす、新しい経営学に基づく奉仕理念を提唱したのが、シカゴクラブ会員、アーサー・フレデリック・シェルドンです。

この奉仕理念をロータリアンはもちろん、多くの事業主が実践したために、世界の経済は大きな発展を遂げました。このシェルドンの理念が後日、ジョン・ケインズが提唱した修正資本主義の原型となり、現在に至っています。

ロータリアンには自らの事業を通じて、社会に貢献する義務があります。シェルドンが提唱した、ロータリーの原点ともいえる職業奉仕理念を実践して、社会に貢献すると共に、自らの事業を発展させましょう。

源流の会は次の三つの目的のために創立しました。

- 1、 シェルドンの経営学に基づく奉仕理念を称え、職業人に広く浸透させること。
- 2、 ロータリーの歴史的に重要な文献を収集し、インターネットを通じて公開すること。
- 3、 インターネットを通じて、ロータリーの情報を伝達すること。

以上の目的を達成するために、努力しておりますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。

×ファクター

テレビのスイッチを入れると、毎日のトップニュースは新型コロナウイルスです。

2020 年末における新型コロナウイルスによる死者数は約 3500 人です。2019 年のインフルエンザの死者数は約 3325 人です。ワクチンも特効薬も存在するインフルエンザに比べると、新型コロナウイルスの方がはるかに軽い疾病であることが分かります。

医学的には、インフルエンザとほとんど変わらない死亡率なのに、政府もマスコミもなぜこんなに過剰に騒ぎ立てるのでしょうか。

老人や基礎疾患をもっている人の致死率が高いのは、すべての疾患に言えることです。Covid-19 の特徴は、感染者の 5 割の人は無症状であり、3 割の人は少し長めの風邪をひいたと思っているのです。残りの 2 割の人が入院を要すものの、その中で重症化する人はごく僅かです。そして、死亡する人は 10 万人当たり 3.2 に過ぎないのです。

10 万人当たり 3.2 という死亡率は、世界の実情からみると、奇跡的に低い数字なのです。問題は、長年にわたる医療費削減策によって、病床数、医療スタッフが最低の段階に抑えられていることです。

今回は何故、日本だけが、死亡率が低いのかについてお話をしようと思います。

日本人は 6000 年前から引き継いでいる D2 という遺伝子を持っています。このような古い遺伝子を持っているのは、世界中で日本だけです。そしてその遺伝子の中には数多くの感染症に対する交差免疫が引き継がれていると考えられます。それを×ファクターと呼んでいます。

Covid-19 10 万人当たりの死亡率			
国別	総人口	死者数	死亡率
アメリカ	3 億 2709 万	374,322	111.4
イギリス	6714 万	81,431	121.3
フランス	6499 万	67,380	103.8
イタリア	6040 万	78,755	130.3
ドイツ	8512 万	40,936	48.1
スペイン	4669 万	51,874	111.3
日本	1 億 2720 万	3,500	2.8

この表から、Covid-19 の日本の死者数が、欧米諸国と比べると極端に低いことが分かります。

10 万人当たりの死者数はアメリカ 111.4 に対して日本は僅か 2.8 です。

ドイツだけが 48.1 と低い死亡率を示していますが、その他の国は全て 100 を超える高い死亡率です。

なお、台湾も日本と同等に低い死亡率を示しており、いずれも、アジア大陸の東に孤立する島国であるという共通点を持っています。

2019 年疾病別死者数	
疾患名	死者数
悪性新生物	376392
心疾患	207628
老衰	121868
脳血管疾患	106506
誤嚥性肺炎	95498
腎不全	26644
ンフルエンザ	3325
新型コロナウイルス	3500

020 年における新型コロナウイルスによる死亡者数は約 3500 人です。2019 年度のインフルエンザの死亡者数は 3325 人です。ワクチンも特効薬も存在するインフルエンザに比べると、新型コロナウイルスの方がはるかに軽い疾病であることが分かります。

何故。日本における感染者や死亡者が少ないのか考えてみましょう。

◎日本ではハグをしたり、キスをしたりする習慣がないので、濃厚接触の機会が少ない。

◎いつでも、どこでも清潔で美味しい水を得られるのは日本位です。

手洗い、入浴の習慣・・・トイレに行った場合でも、必ずと言って手を洗う習慣がついています。普段から手洗い、消毒、お風呂など気をつけていた日本だからこそ感染、死亡率が低いという結果が現れているのかもしれない。感染率だけをみても女性の方が感染率が低いのは手を洗う頻度が多かったり、水を触ることが多いので死亡率も低くなっているのかもしれない。

◎他人と密着しない・・・日本の場合、パーソナルスペースが広い人が多く、元から人と人の距離をとる傾向があるのかもしれない。三尺下がって師の影を踏まずという例えもあります。

◎大声で喋らない・・・大声でしゃべる人が少ないと飛沫感染の可能性は低くなるのではないのでしょうか。外国人、特に中国人の甲高い大声は、有名です。

◎発音の違い・・・日本語の話し方と外国語の話し方に大きな違いがあります。日本語だと唾が飛ぶような発音がありませんし、主語を略しても通じなので、少ない会話でコミュニケーションがとれる言語なのかもしれません。

◎靴を脱ぐ習慣・・・日本では靴を脱いで家に入る習慣があります。従って家の中にウイルスを持ち込む機会が少ないことになります。日本では、道路を消毒する風景を見ることは稀です。靴の裏についたウイルスは 3 日間生きているという調査結果もあります。

◎BCG 接種・・・BCG 接種によって免疫力が高まると言われています。アメリカでも BCG 予防接種した人としていない人で 6 倍の効果があったと言われています。日本で幼少時に行われている BCG 予防接種によって、高い免疫がついているのかもしれない。

◎花粉症の影響・・・日本での花粉症患者は 4 割いると言われています。花粉症は花粉が直接害を及ぼすわけではありません。花粉を追いつめようと免疫が高まって、それがオーバー・サイトカインを起こすためです。その過剰な抗体によって、コロナウイルスが増殖しにくいとも考えられます。

◎マスク・・・新型コロナウイルスが蔓延する前から、日本ではマスクをしている人が多いことで有名です。感染、死亡率もマスクによってかなり抑えられているのではないのでしょうか。N95 以外のマスクは効果ないという人もいますが、飛沫感染を防げることは確実です。ちなみに N95 がウイルスを通さないのは、不織布を使っているためと言われています。紙おむつは不織布で作られていますから、これをマスクに利用することも可能化もかもしれません。台湾では、日本統治時代に起こったスペイン風邪に当たって、マスクをつける習慣がついたため、今回の新型コロナウイルスの被害が少なかったと言われています。

◎国民皆保険制度

医師会の提案によって成立した、全国民が安心して受診することが可能な、世界に誇る制度です。しかし、あまりにも医療費を削減したことと、医療関係者の養成を怠ったことによって、新型コロナウイルスの影響以前に、医療崩壊の危機にあることは確かです。

◎交差免疫・・・日本人は 6000 年前から D2 という特殊な遺伝子を引き継いでいます。この遺伝子には交差免疫の情報が組み込まれているため、感染症にかかりにくいのではないのでしょうか。それが X ファクターの存在です。

X ファクターとは何でしょう。それを知るためには、大和民族の歴史を遡る必要があります。

アフリカで誕生した人類が、初めて日本に到達したのは、3 万年前の旧石器時代末期だと推察されますが、人骨が発見されていけませんのでその遺伝子は不明ですが、前新石器時代の日本人の遺伝子 D2 が発見されています。アフリカ、中近東、中国大陆を経て、日本に到達した男性の遺伝子 Y・D2 であり、それが現在まで残っているわけです。このように数千年前の遺伝子をそのまま受け継いでいるのは、地球上で日本人だけです。

遺伝子の研究によって、この新石器時代に渡来したヒトが現在の日本民族のルーツになっていることが判明しました。



スーパーコンピュータによって日本人の持つすべてのゲノムを徹底的に解析した結果、C 系統、D 系統、N 系統、O 系統の四つの Y 染色体に分けることができ、その内、最も古い Y・D2 系統の遺伝子の存在が日本人の特徴であり、現在でも、新潟で 48%、東京で 40%、青森で 39%、静岡で 33%、九州で 26%という高率の D2 系遺伝子を保有していることが分かりました。この傾向は日本人に特有であり、この遺伝子が日本に入ったのは新石器時代であり、それを現在まで保っているのは日本人だけなのです。通常ならば新しい勢力が先住民族を殺戮して世代交代するために、新しい遺伝子と入

れ替わるのですが、日本ではそうならず、新石器時代の遺伝子をそのまま引き継いでいるのです。

その後、弥生時代になって O2b 系統のヒトは日本に稲作をもたらしましたが、縄文人を殺戮することによる民族交代ではなく、先住民族と平和共存を図り、その後も、先住民族と渡来人との平和共存が図られました。その後、元寇でもモンゴル族に占領されることなく、江戸自体は鎖国によって植民地化を免れました。その間天皇家や、大名・武士は男系相続を守り続けたため、現在に至るまで、日本人男性は新石器時代の Y・D2 系統の遺伝子を持ち続けていると考えられます。このように、新しい民族が先住民族を殺戮せずに、融和し、数多くの感染症に対する交差免疫を持った遺伝子を現在に引き継いだのは、世界中で日本だけです。



アフリカで生まれたヒトは数多くの新しい感染症と戦いながら、生き残って、免疫を得た人だけが、東に向かって移動し、その経過で、自然淘汰によって強い者が生き残って、アジアの東海岸に到達しました。更にその中の強者が海を渡って、日本にたどり着いたものと想像されます。

アフリカで生まれたヒトは数多くの新しい感染症と戦いながら、生き残って、免疫を得た人だけが、東に向かって移動し、その経過で、自然淘汰によって強い者が生き残って、アジアの東海岸に到達しました。更にその中の強者が海を渡って、日本にたどり着いたものと想像されます。

感染症との戦いは、その病気に対する免疫の有無によって終結します。生まれたばかりの新生児は免疫が殆んどありませんから、感染症によって簡単に死に至ります。免疫の情報は全て遺伝子の中に組み込まれています。

数々の感染症に堪えながら、最も古いD2 系統の遺伝子を現在の日本に定着させたことは奇跡に値します。品石器時代から現在まで引き継いでいるこのY・D2 遺伝子の中には、各種のコロナ・ペスト・コレラ・天然痘・黒死病など数千年前から感染症と戦って獲得した、数多くの免疫の情報が組み込まれており、これが交差免疫となって、日本人の新型コロナウイルスの発症と重症化を抑えているという説が、日本におけるXファクターの存在です。

交差免疫とは、過去に獲得したウイルスに対する免疫が、類似ウイルスに対しても有効に作用することです。すなわち、何千年か何百年前に得たコロナウイルスの免疫が、新型コロナウイルスに対して効果を表していることを意味します。

ヨーロッパは戦乱が續いた上、多民族が入り混じっているため古い遺伝子を引き継いでいないし、アメリカ大陸は大航海時代に先住民族を殺戮した、ヨーロッパの新しい遺伝子です。中国も数多くの民族が興亡を繰り返して現在に至っています。そう考えると、大和民族が他国の侵略を受けることなく現在に至っていることは奇跡に近いとも考えられます。

医学的には、インフルエンザとほとんど変わらない死亡率なのに、政府もマスコミもなぜこんなに過剰に騒ぎ立てるのでしょうか。政府もマスコミも余りにもレベルが低すぎます。

毎年、4000 人が死亡しているインフルエンザを理由に、すべての社会活動を停止した例など、過去に皆無です。

老人や基礎疾患をもっている人の致死率が高いのは、すべての疾患に言えることです。Covid-19 の特徴は、感染者の5 割の人は無症状であり、3 割の人は少し長めの風邪をひいたと思っているのです。残りの2 割の人が入院を要すものの、その中で重症化する人はごく僅かです。そして、死亡する人は10 万人当たり3.2 に過ぎないのです。

2 月には、ワクチンの接種が開始されますし、特効薬も開発されるでしょう。この病気が常在化することは間違いありませんから、インフルエンザ並みの警戒感を持って付き合えばいいと思います。高齢者や基礎疾患を持っている人は用心すべきですが、若い人は、従来通りの日常生活を取り戻すべきだと思います。

怖がらずに日常活動に復帰しましょう。このまま過剰な自粛を続けていれば、経済は勿論、芸術も文化もスポーツも衰退の一途をたどります。

三密なのにクラスターにならない例にパチンコがあります。息を殺してひたすら指を動かすだけなので罹りようがないのかも知れません。一堂に会する会議や会食をすることがもっとも危険であることが立証されています。

大声で言えないような、濃厚接触の場を避け、空港検疫の徹底と、男女若者の深夜徘徊と、中年親父の新地遊びを自制すれば、感染者は激減することでしょう。

いつまで、ロータリー活動の休止を続けるつもりですか。ワクチンの接種が終わるまでは、ロータリーの会合は全てオンラインとして、一日も早く、通常のロータリー・ライフを取り戻しましょう。今やオンラインによる会合は、正常な会合として、世界の常識なのです。IT 音痴、世界一の汚名から脱する、絶好の機会だと思うのですが。

日本の医療制度の実態

国民皆保険制度

日本の医療システムは、安心して医療を受けられるように国民全員が公的医療保険に加入し、一人ひとりが保険料を出し合い、助け合うことによって支えられています。1961年に現在の「国民皆保険制度」が制定されました。

患者さんは保険証 1 枚さえあれば医療機関を自由に選ぶことができ、窓口負担だけで診療や薬の給付など、必要な医療サービスを平等に受けることができます。

国民皆保険制度は WHO（世界保健機関）から、健康の到達度と均一性、費用負担の公正さなどを理由に高い評価を受けています。

公的医療保険は会社などに勤めている人が加入する「被用者保険」、地域保険とも呼ばれ、農家やフリーランス、非正規雇用者、会社を退職した人などが加入する「国民健康保険」、75 歳以上を全員対象とする「後期高齢者医療制度」の大きく 3 つに分けることができます。

診療所や病院で治療を受けた時、保険証を持っていれば、窓口で支払う金額は負担割合に応じてかかった医療費の一部で済みます。原則として自己負担は 3 割です。残りの 7 割は、毎月、「保険者」と呼ばれている機関へ納めている保険料が使われます。会社員の健康保険料は、従業員(加入者本人)だけではなく、事業主も折半で負担しています。医療機関は 7 割分のお金を「審査支払機関」に請求することで、この仕組みが成り立っています。

厚生労働省の実態

2020 年に発行された厚労省職員名簿によると、厚生労働省本省職員 31,819 名、課長以上の幹部職員 466 名中、医師は僅かに 18 名に過ぎません。更にこれらの医師の中には、当初から日本の医療制度の向上といった高い問題意識をもって入省した人は少なく、地方の保健所長を経て任官した人が多く、医師として最も大切な臨床経験を持っていない人が大部分です。従って、結果として日本の医療行政は、医療に関する素人同然の人たちによって、医学的見解を無視した、もっぱら財政的、効率の見解を重視した政策で進められていることになりました。

今回の新型コロナウイルスに際しても、厚労省の発言力は弱く、もっぱら第三者委員会によって、その対策が進められていることから明白です。

医療費抑制政策

1980 年代半ばからの医療費抑制政策は、医療崩壊が現実味を帯びた 2000 年代に入ってから続けられ、とりわけ、小泉政権下では、診療報酬もマイナス改定が続き、2006 年度には-3.16%という史上最大のマイナス改定となりました。

しかし技術料を低く抑え、薬価差益により支えられていた医療は、厚生労働省・財務省・マスコミの思い込みにより薬価差益を失ったままであり、多くの手技は経済的に成り立たないまま放置されているため、外科系の医師はその経済状況のため、年々減り続けていきました。その後消費税が 5%、8%、10%に上がりましたが、診療報酬は基本据え置きになり、実質的な引き下げとなりました。

新しい医療器具が次々と開発され、そのほとんどがコンピューターと連動した高価な医療器具に変化しました。昔は心電計と X 線装置だけで済んだ内科も、エコーや CT、MRI が必要となり、眼科においては、全ての検査機器がコンピューター化されて、それに白内障手術装置を加えれば、初期投資額は 5000 万円を超えるといわれています。

医師不足

	日本	イギリス	ドイツ	フランス	アメリカ
臨床医数 1000 人当たり	2.4	2.8	4.1	3.3	2.6
女性医師	20.3	45.9	45.7	44.3	34.6
看護師数 1000 人当たり	11.3	7.9	12.9	10.2	11.6

医師の絶対数は欧米各国で最低であり、特に女性の医師は極端に少ない現状です。終戦直後は2年間で短期養成された医専卒業の軍医によって増加しました。医師数抑制政策の始まりは、第二次臨時行政調査会が1982年7月にまとめた「医師については過剰を招かないよう合理的な医師養成計画を樹立する」と提言されて、1984年以降、医学部の定員が最大時に比べて7%減らされています。

医師養成には少なくとも10年かかるため、勤務医の労働環境は改善されるには至っておらず、労働災害としての過労死を医師にも適応させる事例も見られるようになりました。

団塊世代の医師が急速に退職する一方で、新しく医師になる人数は年々減少しています。国家資格取得の難易度上昇や医学部の定員数限定により、相対的に減少していることが考えられます。

看護師数は欧米諸国と同等数が確保されていますが、その報酬は先進国の中で最低です。

今回の新型コロナウイルスにおけるマンパワー不足も医療従事者の養成を怠ってきた結果です。

病院経営における赤字

	日本	イギリス	ドイツ	フランス	アメリカ
入院日数	28.5	7.1	8.9	1.01	6.1
人口一人当たり外来診察回数	12.7	10.0	6.3	4.0	6.9
病床数 1000 人当たり	13.2	3.3	9.4	7.0	3.0
ICU 病床数	17034	4114	23890	7540	77809
CT 台数 100 万人当たり	107.2	9.5	35.2	16.9	41.8
CT 検査数 1000 人当たり	230.8	84.7	143.1	204.4	253.6
MRI 台数 100 万人当たり	51.7	7.2	34.5	13.56	36.7
MRI 検査数 1000 人当たり	2	3.8	3.4	3.7	3.5

全日本病院協会の調査によると、経常利益で赤字となっている病院は53.8%、医業利益で赤字となっている病院が59.7%と、ともに半数以上が赤字という結果となっています。

病院経営が赤字に陥る背景には国の医療政策に根本的な問題があります。医療費の設定や医療制度、病院経営の現実に則さない施策が多い点が非常に大きな問題を生んでいます。

外来診療回数、病床数、入院日数共に世界一多いのは、国民皆保険によって、安い料金で受診や入院できるためだと思われます。病院側としても、空床があればそれを埋めなければ、経営が成り立たないため、長期入院を是認する傾向にあります。これが医療費全体を高騰させる原因になると共に、今回の新型コロナウイルス感染症に当たって病床不足の潜在的な原因になっていることは確かです。

CT、MRI 等の高価な医療機器は医療水準を高めるために大きな効果を発揮しますが、機器単位あたりの利用率は低く、高額な機器の使用効率が高い結果となっています。

日本では営利目的で医療機関を経営することは認められていません。アメリカでは当然とされている病院の株式会社化は認められていませんから、個人開業医が病院を開設する場合、経営の知識や経験が乏しくて、非効率な病院経営となり、赤字経営に陥るケースも少なくありません。

開業医

病気になって、まず訪れるのが町の開業医です。適切な開業医を選んでかかりつけ医になってもらうことです。日本医師会では「健康に関することを何でも相談でき、必要な時は専門の医療機関を紹介してくれる身近にいて頼りになる医師のこと」をかかりつけ医と呼んでいます。

いざという時に困らないためにも、健康診断などに行く機会を利用して、自宅や職場の近くに、かかりつけ医を見つけておきましょう。

日頃のみなさんの健康状態を知っていて、気軽に何でも相談できる、かかりつけ医がいれば、体調などに関して何でも相談できるので、必要なら医療面で早めの対策がとれますし、専門家を的確に紹介できます。かかりつけ医がない場合、一般の方々が自己判断で受診を手控えたり、延期したり、あるいは、間違った対応策をとっているうちに重症化してしまうといったことが起きることがありますが、それも防ぐことが出来ます。

平成30年1月現在、全国に一般診療所は102,096施設あり増加が継続しています。施設総数のうちに個人事業の占める割合は年々減少しており、平成30年1月時点では医療法人の運営数が個人事業の運営数を上回っています。近年の税制や施設の円滑な医業承継等を考慮すると、医療法人で運営する開設者が増えていることがわかります。

1970年代には開業医の経営が非常に潤っていましたが、1980年代に入って医師への逆風は強くなり、診療報酬や税法の改定が相次ぎました。

2017年6月に厚生労働省が実施した「医療経済実態調査報告」では病院勤務医の平均年収は1,488万円です。一方、開業医の平均年収は2,748万円となっています。病院勤務医については、低賃金で働く研修医が数多くいるために低くなっていますが、専門性の高い技術を持った医師は、かなりの収入を得ている模様です。

少子高齢化に伴って、診療科別の医師も大きく変わりました。小児科、産科、外科は減少しました。これは少子高齢化と共に、医療過誤による訴訟の急増にあるといわれています。内科、眼科は増加の傾向にあります。なお最近では、高齢者の訪問診療に特化した医師が増えている模様です。

開業医のメリットは、病院経営が順調であれば収入が大きく増える可能性があることです。自分の方針に従う人材を採用できるため、院内の人間関係に悩まされることも少ないでしょう。さらに、勤務先のルールに束縛されず、自分が理想とする治療ができることも開業医の魅力です。治療方針や治療費から診療日や診療時間まで、すべてを自分の考えに基づいて決定できます。

その反面、予想に反して患者数が増えず経営がうまくいかない場合は、開業時の借金返済や運転資金調達で大変な思いをするかもしれません。さらに、万が一、医療事故などが発生した場合は、経営者として責任を問われることになるでしょう。

開業医が失敗するケースの一例です。

- ・開業コンサルタントや薬卸業者に頼りすぎた。
- ・物件選びや医療機器に開業資金をかけすぎた。
- ・場所の選定が悪く、患者が増加しない。
- ・スタッフが定住しない。

医療費の現況

	日本	イギリス	ドイツ	フランス	アメリカ
医療費 \$	4717	4246	5726	4902	10209
医療費の増加率	1.8	0.9	1.8	0.9	1.4

2019年度の医療費は43.6兆円に達しました。診療種類別の内訳は、入院が総額17.6兆円（前年比0.34兆円増）、入院外が14.9兆円（0.29兆円増）、歯科が3.0兆円（0.06兆円増）、調剤が7.7兆円（0.27兆円増）、訪問看護療養が0.3兆円（0.04兆円増）となっています。

日本では、10%、30%の自己負担で医療が受けられるために受診率が高く、高齢者の増加も加わって、医療

費の近年の伸びは他国よりも比較的急になっています。

総論

日本には、国、自治体、企業、患者が一体となった国民皆保険制度があります。この制度が広く、国民全体に広がって国は、世界中で日本だけです。しかし高齢者が増え、それを支える若年者が減少し続ける将来を展望すると、この制度を抜本的に改革する必要性があります。

今回の新型コロナウイルスに関連して、医療崩壊の危険性が心配されていますが、以上述べたように、すでに日本の医療は崩壊に近い状態に陥りつつあり、それが新型コロナウイルスにおけるマンパワーと重症者用病床の不足によって顕在化したに過ぎません。

医療従事者に感謝の念を捧げるのはよいことです。しかしその前に病院協会、医師会、大学医学部等の専門団体の意見を聴いて、厚生省を医療関係者のキャリアで固めると共に、医療従事者の養成、医療費の合理的な配分と増額、新薬承認の迅速化、医療機器と薬価の適正化等、日本の医療行政の抜本的改革を行う必要があります。

さらに、特殊な専門医を除く町の開業医は、かかりつけ医を兼ねた総合診療医を目指すべきです。増え続ける高齢者医療を専門とする訪問看護も需要が増えていくことでしょう。

コロナからの脱出

新型コロナウイルス感染症の一日あたりの新規感染者数は、イギリスで2万人、アメリカで3万人、韓国で3千人といった数字に対して、日本では100～200人しか発生していないのは、確かに不思議な現象です。

日本における患者発生数が諸外国に比べると極めて少ないのは何故でしょうか。

その理由として、ワクチンの接種が外国に比べると2か月遅れたこと。皆がマスクをつけ、若者が深夜の飲酒や盛り場の徘徊を自粛したことなどをあげていますが、果たしてそのようなことだけで、諸外国と比べて10倍から100倍の差がつくのでしょうか。

日本人の感染者数が極端に少ないのは何故でしょう。その理由について、誰も疑義を抱かないのが不思議でしたが、やっと、その点について、岸田総理が「日本において新型コロナウイルスの感染者が外国に比べると極端に低いのは何故かを検証する必要がある。」と述べました。

	人口	感染者数	10万人当たり 感染率	死亡者数	10万人当たり 死亡率
アメリカ	329,065,000	50,513,428	15,350.59	802,510	264.93
ブラジル	211,050,000	22,201,221	10,519.41	617,271	292.47
イギリス	67,530,000	11,097,851	16,433.96	147,218	218.00
フランス	65,130,000	8,262,620	12,686.35	121,968	187.27
ドイツ	83,512,000	6,741,968	8,073.05	107,207	128.37
日本	126,860,000	1,729,964	1,363.67	18,372	14.48

上の表を見ると、日本の10万人当たりの感染率は1,363.76と諸外国平均の1/10、死亡率は1/20と極端に低いことが分かります。ドイツが日本に続いて低い値を保っています。なぜ日本人の感染率、死亡率が低いのでしょうか。その理由として、次のようなことがあげられます。

- キスやハグをする習慣がない・・・これにより、かなりの濃厚接触が避けられます。
- 清潔・手洗い・入浴の習慣がついています。
- 清潔で豊富な水・・・いつでも、どこでも、清潔な水が得られることが、日本の特徴です。
- 大声を出さない、発音の違い、破裂音が少ない
- 屋内で靴を脱ぐ・・・この習慣があるために、屋内は常に清潔な環境が保たれています。
- マスクをする・・・外出時には、殆んど100%の人がマスクを着用しています。
- 常識的な生活態度・・・一部の若者を除いては、深夜徘徊もなく、極めて常識的な生活態度を示しています。
- 行政の方針に対する協力・・・日本人の大部分は、デモをすることもなく、素直に行政の要請に協力しています。
- 医療制度の充実・・・早期受診と治療が可能となります。

これらの生活慣習の違いから、日本の感染率や死亡率が、西欧諸国と比べて少ないことは、ある程度想像できます。しかし感染率や死亡率が、西欧諸国の1/10から1/20と極端に低いことは説明できません。

私も医者として感染症や免疫の勉強をしましたが、今回の新型コロナウイルスを機会に、数々の専門書を読み漁りました。その結果、日本民族には、交差免疫について、特殊なファクターが存在することが分かりました。まだ仮説に過ぎませんが、こまXファクターについてご紹介してみようと思います。

日本人は縄文時代からD2という特殊な遺伝子を引き継いでいることが分かっています。遺伝子には、過去の感染した感染症に対する交差免疫の情報が組み込まれているため、感染症に掛かりにくいとか、重症化する確率が低いのではないかと考えられています。それがXファクターの存在です。

1918年から1920年(大正7年～9年)にかけて世界中で蔓延したスペイン風邪によって約5000万人の人が死

亡しました。

当時の世界の総人口は 18 億人ですから、10 万人当たりの死亡率は 2,777.7 に及びます。

日本でも延 2380 万人の人が感染し、38 万 8 千人が死亡しました。当時の日本の人口は 5500 万人ですから、総人口の半数が感染したことになります。しかし、日本の 10 万人当たりの死亡率は 70.54 という極端に低い数字を示しています。何故でしょうか。

今回の新型コロナウイルスにおけるアメリカの死亡率 264.93、ブラジルの 292.47 はスペイン風邪の死亡率とほぼ同じです。日本の死亡率はさらに下がって、14.48 に過ぎません。

日本人には感染症に侵されない特殊な要素 X ファクターがあるとも考えられます。

X ファクターを知るためには、日本人、大和民族のルーツを辿ってみなければなりません。

700 万年前にチンパンジーからヒトの系統が分かれました。

100 万年前にアフリカで最初の原人ホモ・エレクトスが出現し、40 万年前に西ヨーロッパを中心にネアンデルタール人が出現しました。

今から約 14 万年前の現在のヒトの先祖とされる女性のホモ・サピエンスがアフリカのボツアナで発見され、10 万年前には世界各地に広がって、その地に適応しました。アフリカのホモ・サピエンスの子孫が直接世界中に拡散したのか、アフリカの原人から多様に進化したホモ・サピエンスが世界各地に拡散したのかは不明です。ボツワナのコイサン族は、現在生きているすべての人間の母系共通祖先として、14 万年前のミトコンドリア DNA を持っているのです。

なお、男系の Y 遺伝子は 9 万年前のものが残っています。

4 万年前にネアンデルタール人が絶滅しましたが、ホモ・サピエンスと交配したことが、DNA 検査で分かりました。現代人は 1 から 5% のネアンデルタール人の DNA を保有していると言われています。ネアンデルタール人の遺伝子の特徴的なものは青い目、金髪、白い肌です。

私たち日本人の先祖はどこからきて、この極東の島国で、他のアジアの国とは異なる日本固有の文化を育んだのでしょうか。スーパー・コンピューターと AI を活用することによって、日本人の持つ DNA を徹底的に検査することによって、そのルーツを探る研究が飛躍的に進みました。

1 億 3000 万年前には日本列島を含むユーラシア・プレートの東側に大規模な横ずれ断層が生じ、それが後の日本海溝となります。日本列島の地質は、この年代の地質で構成されていることが分かっています。

日本列島は 4000 万年前までは大陸と地続きでしたが、2000 万年前に大規模な地殻変動が起こって、大陸の淵の部分に海が侵入して浸食が進み、3000 メートル級の海溝ができて、日本海になりました。更に 50 万年前には、伊豆半島の衝突によって「く」の字型に大きく歪み、現在に近い日本列島ができました。

野尻湖の 5 万年前の地層から、ナウマン象の歯が発見されたことは、日本列島が大陸と地続きであったことを証明するものです。

3 万 8000 年前の日本の旧石器遺跡が全国に数多く見られ、この年代から、日本に人が住み始めましたその遺骨は発見されていません。

2 万年前の氷河期に、対馬海峡によって大陸からは分断されましたが、北海道は大陸と地続きでした。

1 万 8000 年前の旧石器時代の人骨化石が、沖縄で発掘されました。

1 万 2000 年前、宗谷海峡が水没して、日本列島は現在の形になりました。外敵を阻むかのように、周囲を海に囲まれた地形になりました。これが結果として、大陸からの侵略を防ぎ、日本独特の文化を育むことにつながったのです。

日本で最も古い遺骨は沖縄で発見されています。そして、その遺骨の DNA はアイヌ人の遺骨と一致しています。

私たち日本人の先祖はどこからきて、この極東の島国で他のアジアの国とは異なる日本固有の文化を育んだの

でしょうか。最近では、日本人の持つ DNA を徹底的に検査することによって、そのルーツを探る研究が飛躍的に進みました。

DNA を調べるには三つの方法があります。

① ミトコンドリア遺伝子・・・女系のみに受け継がれていく遺伝子です

日本人のミトコンドリア遺伝子は、セム系のユダヤ人と非常に似ていることが分かりました。アフリカで誕生した人類の祖先が古代ユダヤ人として中近東を経て、中国の長江を経由して、さらにシベリアを経由して日本に到達したと考えられます

② Y 染色体・・・男性の遺伝を示します。

Y 染色体には 80 種類ほどの遺伝子が含まれていますが、そのパターンや配列を詳しく調べたところ、日本人は「D2」というタイプを多く持っていることが分かりました。「D2」タイプの中の「YAP 型」は、Y 染色体上に見られる初期の人類特有の非常に特殊な配列で、世界的にも珍しく、アジアでは圧倒的に日本人に多く存在し、中国人や韓国人にはありません。

③ 核全体の DNA

日本人の持つすべてのゲノムを徹底的に解析した結果、Y 染色体亜型は、C 系統、D 系統、N 系統、O 系統の四つのグループ、そして主要六系統に分けることができます

縄文人には D2、弥生人には O2b 系統が多数を占めますが、現在の日本人は、D2、Ob2 のほかに、C3 系統、Q 系統、N 系統、NO 系統、O1 系統、O2a 系統、O3 系統どのその後日本に渡来したと思われる多様な DNA を持つ人が存在します。

すなわち日本には先住民族である縄文人が大和民族の祖先として存在し、そこに渡来人である弥生人が加わり、それ以外にも、世界各地から多数の民族が日本に集まって、現在の日本人を構成していることが分かります。

すなわち、アフリカで誕生したホモ・サピエンスの一つの集団が、中近東に到達して古代ユダヤ人となりました。この集団は東に進み、新疆を経由して北に進みシベリアから、当時は地続きだった日本に到達しました。

その時期は縄文時代だと考えられます。その後中国から稲作文化を持った弥生式文化が入りますが、小規模の集団であったため、すでに大和朝廷が強力な力を持っていたので、殺戮による民族の交代は行われず、縄文人に融和する形になりました。通常では新しい集団が古い集団を殺戮して遺伝子も入れ替わるのですが、日本ではそれが起こらなかったのです。このような例は世界中で日本にしかみられず、他の国では新興勢力が旧勢力を殺戮して、それに伴って新しい遺伝子に置き換わってしまうので、日本のような例は見られないのです。

現在の日本人の遺伝子には縄文人の男系遺伝子 D2 が、大きな割合で残っています。新潟で 48%、東京で 40%、青森で 39%、静岡で 33%、九州で 26%、徳島で 26%などと、かなり高い頻度で、D2 系統の遺伝子を引き継いでいます。

4000 年前の遺伝子をそのまま引き継いでいるのは世界中で日本の大和民族のみです。日本列島は周囲を海に囲まれているため、大陸の戦乱に巻き込まれることはなく、日本に入ってくる渡来人も小規模であったため、渡来人は大和民族に同化しました。唯一の危機であった蒙古の襲来も九州防人の反撃と台風の影響によって、その危機を避けることができました。その後は徳川幕府の鎖国政策によって、外国の植民地にならずに現在に至っています。

人類の歴史はウイルスとの戦いの歴史でもあります。ペスト、コレラ、チフス、天然痘あらゆるウイルス性疾患が人類を襲い、これに打ち勝って免疫を得た人のみが生存可能であったわけです。ウイルスも自らの生存をかけて変異を繰り返しながら迫ってきます。ユーラシア大陸の東岸にはこれらの感染症と戦ってあらゆる感染症の交差免疫を得た強者が集まり、その中で選ばれた者のみが海を渡って日本にたどり着きました。そして、島国という閉鎖的な環境の中で、敵国の侵略のみならず、ウイルスの流入をも防いだのです。現在の日本人の 30 から 40%の人が縄文人の DNA のすべての情報を引き継いでいる、即ち、感染症の交差免疫も引き継いでいるという

ことが、新型コロナウイルスの死亡者を極端に抑えている因子、すなわちファクターXだという考え方です。

交差免疫とは過去に罹ったウイルス性疾患の免疫が別のウイルス性疾患にも効果を表すことを言います。多くのウイルス性疾患と戦って、多くの免疫を持って日本に住み着いた大和民族の遺伝子には、この交差免疫の情報も引き継がれているのではないのでしょうか。

これは、現在のイスラエルに当てはまるものではありません。現在のイスラエルは古代ユダヤ人の末裔が集まっているのではなく、宗教上の価値観を一にする人が他の民族から集まっているからです。

Xファクターはあくまで仮説であって、学問的に証明されたものではありません。

敢えて、この因子を日本民族の優位性に結び付けるつもりはありません。ナチス・ドイツのゲルマン民族の優位性と同じ論法になりますから。

ただ、日本人と同じルーツを持つユダヤ人と日本人にノーベル章授賞者が多いのは偶然の事実でしょうか。

ファクターXという表現を最初にしたのは、京都大学の山中教授ですが現在は、現在はこの件に関しては口を閉ざしています。彼は、T型細胞記憶によって交差免疫が起こっているのではないかと述べています。

過去の旧型コロナウイルスへの感染によって、新型コロナウイルスに対しても抵抗性を示す T 細胞記憶が存在しているのではないかと、つまり旧型コロナに対する免疫記憶が新型コロナウイルスに対しても有効なのではないかという仮説です。

更に、日本人の新型コロナウイルス患者の抗体の免疫グロブリンを検査すると、75%に IgG の上昇がみられ、交差免疫を否定する IgM の上昇は 7%に過ぎないので、明らかに交差免疫があるというパターンを示しています。

しかし、何百年前に感染したコロナウイルスの交差免疫が、果たして、現在まで残っているのでしょうか。そしてその交差免疫は他のウイルス性疾患にも効果を表すのでしょうか。

何れにせよ、日本人の新型コロナウイルス感染症による死亡率は外国に比べると極めて低いことは事実なので、それに対応した政策をとる必要性があります。

マスコミは毎日の患者数や死亡者の数を見出しにして騒ぎまわります。WHO はオミクロン株の脅威を煽ります。政府は完全に委縮して防御策一辺倒です。しかし諸外国は感染数が多くても経済活動を再開しているのです。

日本が感染率も死亡率も低いことは紛れもない事実です。日本が優位な条件にあることは誰の目にも明らかです。一刻も早く、日本人らしい謙虚な態度を守りつつ、コロナ禍前の生活に復帰しなければなりません。

私が昨年春に書いたコラム「春一番と台風」を再掲します。

・・・「この疾患そのものはそんなに怖いものではなく、日常的に起り得る疾患だと考えるべきです。高齢者や基礎疾患を持った人の罹患率や死亡率が高いのは、Covid-19 に限ったことではなく、どの疾患でも同様です。結果的に見れば、日本人にとって、新型コロナウイルス感染症は、インフルエンザ並みの疾患に過ぎないのです。インフルエンザで職場を閉鎖することはあり得ません。

マスコミを使って風評被害を煽ることは止めてもらいたいものです。毎年起こるインフルエンザ並みの患者数、極端に低い死亡率であるにも関わらず、それを過大に騒ぎまわることによって、国民生活は大きな障害を受けることになります。休校によって、子供を持つ、看護師、ヘルパーを抱えた医療、福祉施設は十分な活動ができません。診療内容を縮小した医療機関も現れています。中小な企業ではテレワークを採用することは不可能です。

過度な規制によって日本経済は大きな打撃を受ける可能性があります。十分な予防措置を取ることを条件に、流行地以外の活動は、平常に戻すべきです。

疫学的には来年の 3 月末から 4 月にかけて、ピークに達するでしょう。その後は徐々に収まって、半年後には、この病気のことは話題にも上らないでしょう。今年は、遅い時期にインフルエンザが(Covid-19)が流行ったと楽観的に考えるべきでしょうし、この病気が常在的な疾患として残るかもしれません。

Covid-19 はちょっと強めの春一番が吹き荒れたに過ぎません。決して台風ではありません。私の予想が当たることを願っています。

新型コロナウイルス対策に関しては、まったく医療に関しては無能な厚労省は大きな失態を示しました。専門集団である日本医師会の提案を退けて、緊急事態宣言を遅らせたことが、致命的な失態となりました。医師会の提言を受けて、直ちに実行すれば、ピーク時の感染者や死者の数は、3 週間前の数字に留まったはずです。

すべての資源の供給を中国に頼っていた通産省にも大きな責任があります。 やっとそれを悟った政府は、サプライ・チェーンから中国を外して、国内や自由主義国で完結する決断をしました。日本には素晴らしい技術を持った零細・中小企業があります。これらの二次産業や、農業・漁業などの一次産業を優遇して、その活性化を図ることによって、国内でサプライ・チェーンを完結することも可能です。

今回の新型コロナウイルスの影響によって、現在の日本産業の支柱になっているサービス業などの第三次産業は大きな痛手を受けましたが、今後の日本の発展は、これらの第一次、第二次、第三次産業をバランスよく再構築することに係っています。

すべての政策に対して、対案を示さずただ反対のみを唱える野党に対して、民主主義の唯一の解決法である多数決の権利を活用して、速やかに立案して、それを実施に移すべきです。このような非常事態に対しては、無駄な議論よりもスピードが必要です。」・・・

この私の予想が見事に当たりました。

この感染症はインフルエンザと同様に、新しい株の出現によって強弱を繰り返しながら常在的に残るでしょう。現在は一日当たりの感染数は 100 から 200 人であり、その傾向が続いています。しんし、これが 500 人程度まで増えるかもしれません。しかしその程度ならば心配する必要はありません。ブースター接種を受け、マスクをつけて、群がらなければ大丈夫です。今後はインフルエンザ同様に毎年ブースター接種を受けることになるでしょう。

日常生活に戻ることが、日本経済の発展に繋がります。

外に出ましょう。

大空のもとで深呼吸をしましょう。

四季の移ろいを楽しみましょう

グルメを楽しみましょう。

生の音楽を聴きましょう。

スポーツを楽しみましょう。

私は 88 歳を超えました。今、楽しまなくては、来年は賞味期限切れになる可能性大です。

新しい資本主義

明けましておめでとうございます。

コロナ禍ですべての経済活動が閉ざされた2年間でした。幸いなことには、日本における患者数、死亡者数共に諸外国の1/100から1/500以下というという現況が継続するならば、今年こそはwith Coronaのもとで、新しい経済活動を再開することが可能になるわけです。

岸田総理が就任後強調しているのが、新しい資本主義という言葉です。

その具体的な内容は、デジタル化によって効率的な事業運営を行うこと。従業員に対して適正な給与を支払うこと。新しい事業を創立するための人材を教育すること等が述べられていますが、どうやら、この新しい資本主義とは、現在の新資本主義から決別することを表明するものと思われます。新資本主義とは、岸田総理が目指している新しい資本主義とは全く違う概念です。

まず、岸田総理が決別しようとしている新資本主義について考えてみましょう。

新資本主義はミルトン・フリードマンが提唱した考え方でアングロサクソン型資本主義とも呼ばれています。国家も制度も民族も否定して、新自由主義(新資本主義)のメカニズムのみが、人間社会に幸福をもたらすという考え方です。

新自由主義の思想と論理は 単に経済思想だけではなく、政治経済社会全般に具体化していけば、結果として全体の富がごく僅かな富裕層に集中していくように仕組まれており、新資本主義の信奉者は、その目的のためには政治権力と結託して行動を起こし、手段を選ばず目的を貫徹しようとする執念を持っているのです。

新自由主義の基本理念は、「市場万能主義」と「小さい政府」と「金融万能主義」です。これは、自由な市場は、価格機能によって、資源の最適配分ができるようになるので、富を最も効果的に配分することができ、そのためには経済活動を可能な限り自由にすべきであるという考え方です。

それを実現するためには、政府機能を縮小して「小さい政府」にし、富裕層に減税し、社会保障制度を否定すれば、富裕層に富が集中し、経済が成長して、結果的に国家が繁栄します。更に、財政政策は金融万能主義（マネタリズム）を採用することが基本になります。

新資本主義は、何ごとも利益追求のチャンスとして、ゼロから無限の富を目指すサクセスストーリーで、人々の競争意識を駆り立てる魅力があります。しかし、その反面、他人の迷惑は無視して、全ての商品を投機化した結果、バブルに陥るリスクがあります。

1970-80年代、米国の伝統的富裕層には不満が蓄積されており、福祉型資本主義ではなく、富裕層への富の配分を増やすような政治指導者を求めていました。その代表格がネオ・コンサーバティブ（新保守層、ネオコン）と呼ばれるグループです。彼らは、フリードマンの新自由主義を政治経済理念にすれば資本家の利益配分を多くできると考え、福祉型資本主義から新自由主義型資本主義に転換しようとしていました。そして、この政策を採用入れたのが、アメリカではレーガン大統領、ブッシュ親子大統領、トランプ大統領、イギリスではサッチャー首相であり、日本では竹中平蔵、小泉、安倍首相がその影響を大きく受けています。

現在の資本主義は、ライン型資本主義（ヨーロッパ型資本主義）とアングロサクソン型資本主義（新資本主義）とに大別されます。前者には ドイツ、フランス、日本が含まれ、後者にはアメリカ、イギリスが含まれます。

アングロサクソン型は「市場万能主義」と「小さい政府」と「金融万能主義」を基本理念に掲げています。金融市場依存型であって、企業は 証券市場において株式や社債を発行して資金を調達します。株主重視の経営であるために、経済発展のダイナミズムに敏感な企業経営となる一方で、株主が気に入らない経営者は罷免されるので、経営者は常に株価を最重要視せざるを得ません。業績が悪化すると、従業員はいとも簡単にレイオフされます。

ライン型資本主義は、お金以外の、仕事自体の充実感や、社会構造や組織構造や、権力・報酬の公正な配分や、友情、職場の結束、取引関係やその他の社会関係から生まれる義理などの共同生活の側面を重要視します。富と

働く意欲についての考え方以外にも、企業をそこで働く人々の公共的機関であると考え、株主より従業員を重視します。強い製造業部門を維持し、平等主義的な社会であり、所得格差を小さく止める 福祉国家の制度を目指しています。

この考え方の源流は 1919 年に起こった世界大恐慌後にルーズベルト大統領が採用したケインズの修正資本です。

ケインズはケンブリッジ大学で貨幣論を研究し、1935 年に「雇用・利子および貨幣の一般理論」を発表して、有効需要の不足に基づく失業は減税・公共投資などの政策により投資を増大させることで、回復可能であることを示して、大恐慌に苦しむルーズベルト大統領によるニューディール政策の強力な後ろ盾となりました。

実はこれより 30 年も早い 1902 年に、アーサー・フレデリック・シェルドンが提唱した *He profits most who serves best* に基づく経営学理念は、経営学の見地から、この修正資本主義の考え方とほぼ同じ理念でした。唯一異なる点は、修正資本主義は国家が国策として行うのに対して、シェルドンの思考は企業の経営者が自主的に行うという点だけです。

ケインズの政策はマクロ経済学として国家が採用したのに反して、シェルドンの経営学はミクロ経済学として企業や個人が採用したために、修正資本主義より先に実施されたにも拘わらず、シェルドンの考え方が一般社会の人々に広く知られていないことは、ロータリアンとして非常に残念なことです。

アーサー・フレデリック・シェルドンはシカゴ・ロータリークラブの会員であるとともに、ロータリクラブ連合会(後の国際ロータリー)で Business Method Committee の委員長として、弱肉強食の荒れ果てていた事業環境の浄化を図るとともに、1902 年に経営学を教える学校をシカゴで開校して、数多くの経営学のリーダーを世の中に送り出しています。

シェルドンの経営学理念は、継続的な事業の発展を得るためには、自分の儲けを優先するのではなく自分の職業を通じて社会に貢献するという意図を持って事業を営む、すなわち会社経営を学問だととらえて、原理原則に基づいた企業経営をすべきだと考えました。また利益を独占するのではなくて、従業員や取引に関係する人たちと適正に再配分することが継続的に利益を得る方法だと考えたのです。すなわち当時からすれば、極めて斬新な考え方であったと言えます。政府の規制ではなくて、事業所の発想に基づいた経営者と従業員の自発的な量と質と管理状態のコントロールであり、いわば事業所と労働者が自発的に行うことが、ケインズの修正資本主義と大きく 違う点です

修正資本主義を 30 年も先取りした内容を具体的に教えたために、この考え方を実践した事業所は業績を伸ばしました。

シェルドンの経営学に基づく奉仕理念は、継続的な利益をもたらす顧客を確保する活動であり、それを分かり易く説明するモットーとして、「*He profits most who serves best*」を提唱しました。シェルドンの奉仕理念は極めて単純明快なものです。

- ・事業を営んでいる限り、価値ある奉仕を行う必要があること。
- ・奉仕を行う能力を開発して、その能力を適用すること。
- ・奉仕を行えば、正当な報酬が得られること。

健全な事業経営とは、奉仕理念に基づいて、継続的な利益 profit をもたらす常連客を確保することです。

Profit とは奉仕を行った正当な報酬のことです。

奉仕という原因には、必ず報酬という結果が与えられます。この順番を間違えないことが重要です。あまりにも事業に失敗する人が多いのは、この順番を間違えて先に報酬と言う結果を得ようとするからです。

奉仕については次のような定義をつけています。

- ・仕事を管理する人たち（企業主）を管理すること。
- ・管理される人たち（従業員）を管理すること。
- ・この両者に顧客を加えた集団を管理すること。

さらに、これに時間やエネルギーやお金や材料を無駄遣いせず有効 に活用して保全することを付け加えることです。これはすべて安心と豊かな実りを獲得するための道です。

世界の経済は、貪欲な資本家が弱肉強食の競争に明け暮れていた無秩序な資本主義が世界大恐慌で崩壊し、その後ケインズが提唱した修正資本、と第二次世界大戦終了による景気回復によって安定化しました。しかし、戦後にはヨーロッパや日本ではこの修正資本主義はライン型資本主義として定着しましたが、アメリカやイギリスではアングロサクソン型資本資本(新資本主義)に変化していきました。

21 世紀を迎え世界全体のグローバル化によって世界全体が新資本主義に転換していきました。企業は IT 化による効率化を図り、必要な人材を確保するために有能な人材を正社員として確保し、その他の人を非正規社員としていつでも解雇できるようにしました。ライン型であった日本にもその波は押し寄せて、小泉総理が積極的に採用したことが、国民の反発を招いて、革新政権を作る原因となりました。

岸田総理は、当然のこととして、小泉、阿部総理が採用した経済政策が新資本主義に基づくものであることを知っています。

そこで、岸田総理が唱える新しい資本主義とは何かを聞いてみると、どうやら修正資本やライン型資本主義を目指しているように思われます。もしもそうならば、ロータリーが目指しているシェルドンの経営学に基づく奉仕の念と合致することになります。

岸田総理は労働者に対する賃金の適正配分について言及しています。作業内容が同一な正社員と非正規雇用に同一な賃金を支払うことを表明しています。もともと、安定した労働力を確保するために正社員を、不要な時にいつでも解雇できるように非正規社員を雇用することが間違ったことなのです。従業員は家族と同様です。継続的な雇用は雇用主の責務です。

これに関してシェルドンは

雇用主の従業員に対する責務は、

1. 適正な報酬を支払うこと。
2. 安全、福利厚生、社会保障、快適な生活を保証すること。
3. 従業員に教育の機会を与えることです。

従業員の雇用主に対する責務は、

1. 職場では最善を尽くして働くこと。
2. 過失を最小限におさえること。
3. 会社の管理運営に協力することです。

雇用主と従業員がこの 3 種類の責務をお互いに果たすことが、会社の発展に繋がるのです。

その他、岸田総理の考え方は、シェルドンの経営学に基づく奉仕理念と合致する点が、各所でみられるようです。特に、雇用主が従業員に教育の機会を与える件は、今までになかった発想だと思います。

岸田内閣の活躍に大いに期待するとともに、これをロータリーの奉仕理念を広く社会に広報する機会ととらえたいと思います。

今年が皆様にとって、より良い年になりますように。

Service とは

第 24 回源流ウェブセミナーにおいて、Service について激論が戦わされました。そこで、今回はその Service について解説してみたいと思います。

ロータリーにおいて、Service という言葉が頻出します。ロータリーでは標準的な訳語として「奉仕」という言葉を使っていますが、「奉仕」という言葉ですべてを表現できるのか大きな疑問が残ります。

まず Service という用語の意味を知らなければなりません。さらにロータリーの用語としての奉仕という訳語が、日本人に正しく伝わっているかどうか、はなはだ疑問です。

辞書を調べると

- ① 公務に対する事業、供給、用務、兵役
- ② 勤務、使用人としての務め
- ③ 修理点検
- ④ 客扱い
- ⑤ 尽力、貢献
- ⑥ 役立つこと、奉仕
- ⑦ 宗教上の儀式

などの訳がありますが、日本では商業上で一般的に使われている「値引き」とか「おまけ」といった意味は含まれていません。

ロータリーで使う場合、ロータリアンならば Service という意味はある程度理解できるのですが、それを日本語で表現する場合、果たして「奉仕」と訳して、その本質が分かるかどうか疑問が残ります。

米山梅吉も井坂孝もそのことを心配したらしく、Service を敢えて訳さずに、「サーヴィス」とそのまま記載しています。

いろいろなロータリアンが、いろいろな立場から Service を述べています。

ある人は天職論を通じて、またある人は儒教の教えや東洋哲学を引用して Service を説きます。しかしシェルドンが述べる Ideal Service の理念は、偽りに満ちた、骨肉相食む、食うか食われるかの激烈な競争社会、20 世紀初頭の新興国家アメリカで生まれた思考であることを忘れてはなりません。

奉仕理念をロータリーに導入したのはアーサー・フレデリック・シェルドンですから、彼が述べている Service に関する記述を紹介してみます。

シェルドンはその著作「奉仕の原則と保全の法則 Service and Conservation」の冒頭で Service とは何かを定義しています。

Service とは 1. 仕事を管理する人たち（企業主）を管理すること。 2. 管理される人たち（従業員）を管理すること。 3. この両者に顧客を加えた集団を管理すること。さらに、

これに時間やエネルギーやお金や材料を無駄遣いせず有効 に活用して保全することを付け加えることであると記載しています。

これはすべて安心と豊かな実りを獲得するための道です。

世に有用な職業に従事している人は全員、奉仕によって品物を作ったり、売ったりしているのです。すべての従業員は、人に役立つものを作り、雇用主はそれを売っているのです。

役に立つこととは Service の別名なのです。

私たちが今まで使ってきた奉仕とはかなり異なった定義であり、 世に有用な職業に従事して働く行動は、全て Service だとも考えても良いように思われます。

この定義から Service をロータリー的な日本語に翻訳するとどうなるでしょう。

「人の役に立つこと」

さらに 1904 年に発行された「経営学 Science of Business」の中で シェルドンは、「Service という単語そのものについて、あまりにも多くの意味を持った単語なので、一言で言い表すことは不可能であると前置きして、Service を受けた立場から得られるのは「満足感」であると述べています。」

Service を行う立場からはどのように表現したら良いのでしょうか。

一般社会の中で、Service という言葉が、パチンコ屋の出血サービスや百貨店のバーゲン・セールを連想させないように、さらにロータリーと関連付けるためには、どのような日本語が適切でしょうか。「貢献」という言葉を使うのも一つの方法かもしれません。

ロータリーが他の奉仕団体と異なる唯一の活動は職業奉仕にあります。従って、ロータリアンとして最も重要な使命は、職業を通じて社会に奉仕(貢献)することです。今は現役を退いている人として、その重要な経験を若い人に知らしめるための活動が求められます。

奉仕を実践すれば後から必ず利益がもたらせられます。先に利益を求める人の事業は衰退します。小さな奉仕には小さな利益が、大きな奉仕には大きな利益がもたらせられるのです。

Ideal of Service という言葉もロータリーではよく使われます。

この言葉の意味については、「Official Directory 会員名簿」の最後のページに Chesley Perry が書いた「a Brief History of Rotary」を参考にして Service の真意をご理解ください。

Rotary clubs everywhere have one basic ideal -the "Ideal of Service", which is thoughtfulness of and helpfulness to others

ロータリークラブはいかなる場所においても、一つの基本的理念をもっている。それは人に対する思いやり thoughtfulness と人に対して役に立つ helpfulness ことである。

なお、全世界のクラブの詳細が収録されているこの本 Official Directory は、2008 年をもって定期発行が中止になり、その後 CD と Web に収録されましたが、現在は RI のサイトのみに収録されています。

コロナからの決別

日本では一日当たりの感染者が 9 万人程度で、マスクが大騒ぎしているのに比べて、アメリカでは最盛期には 130 万人、フランスでは 50 万人、イタリアでは 20 万人という桁外れの患者が発生しています。ヨーロッパにおける感染者は今期中に 200 万人に達するだろうと言われています。

感染者は、一時は 1 桁台にまで減少したので、このままの数で推移して、やがてインフルエンザと同規模になれば、新型コロナウイルス感染症対策に関しては日本は優等生として卒業でき、私の予言も 100%的中したのですが、世界はそんなに甘いものではありません。

この問題は、オミクロン株という極めて特殊な株が発生したというWHOの発表から始まりました。「極めて特殊な株」という指摘を重症化と錯誤した日本政府は、入国時の検疫に重点を置き、当初は2週間の監視措置、飛行機内で陽性者が出た場合は機内の全員を濃厚接触者として隔離しましたが、その後陽性者のほとんどが無症状か軽症であることが分かったので、現在はこれらの措置を徐々に緩和しつつあるものの、患者数に拘ったあまり、最終的な決断ができずに、するすると、まん延防止等重点措置を続けている状態です。

私が以前から再三述べている通り、日本には「Xファクター」と呼ばれる特殊な要素があるために、かつてのスペイン風邪で示されたように感染症に対する免疫が強く作用するために、諸外国に比べると 1/100 程度の死亡率しかありません。

さらに、オミクロン株が強い感染力を持っていることは事実としても、大部分が無症状か軽症ならば、こんなに大騒ぎする必要はないと思います。現在の状態を見ると、確かに感染者は多いとしても、重傷者や死亡者はデルタ株の 1/10 程度です。従って、インフルエンザ並みの with Corona の時期に入ったと見なして、経済や社会活動を再開すべきだと思います。

世界の現在の状況を再確認してみましょう。この一連の新型コロナウイルス感染症による死者数はアメリカ 90 万人、ブラジル 63 万人、イギリス 16 万人、フランス 13 万人、ドイツ 11 万人。これに対して日本はわずか 1 万 9 千人にしか過ぎません。毎日数十万人単位の感染者を出している欧米諸国でも、日常生活を徐々に取り戻しつつあるのが現状です。

日本よりはるかに被害の多い欧米諸国は、コロナ感染症をインフルエンザ並みに格下げして、with CORONA の社会・経済政策をとり戻しつつあります。

アメリカでは不思議な現象が起こっています。バイデン政権(民主党)はワクチン接種に積極的です。これに対してトランプ支持者の多い南部各州では、接種義務化に猛反対しており、マスク着用についても消極的です。デルタ株蔓延時にはこれらの南部各州のコロナ感染者は多かったのですが、現時点における感染者数はニューヨーク、サンフランシスコ、ワシントン DC 等の民主党が勢力を持っている地区よりも、南部各州は患者数減少の傾向を示しています。

南部のプロテスタント系の強烈なトランプ支持者はワクチン接種もマスク着用も頑なに拒んで、大量の人がデルタ株に感染しました。その結果早めに集団免疫を獲得して、新規感染者が減少したものと考えられます。

アメリカやヨーロッパ諸国はすでに最盛期を超えて、患者数も減少の傾向にあり、急速に日常生活に戻りつつあります。

日本では、ワクチン接種率が 78.8%と非常に高く、3 回目のブースター接種も順調に進んでいます。オミクロン株は感染力は高くても、無症状か軽症で重症化や死亡率が極端に低いことを考えれば高齢者や基礎疾患を持つ人に十分配慮しつつ、with CORONA としての日常の社会・経済生活に復帰すべ

きであると考えます。

政府として、専門家集団の意見に従って、確固たる信念を持って、この新型コロナウイルス感染症を、現在の感染症第 2 分類からインフルエンザ同様の感染症第 5 分類に改定して、社会生活をコロナ禍以前の正常な状態に戻すべきだと思います。

なお、NHKをはじめマスコミ全般にも、この感染症に対するマンネリズムにも似た報道と誇張に満ちた表現を自粛するような規制を行うべきです。毎回のニュースで、今日は何千人とかいう数字を挙げて、いかにも大事が起きているような報道は、あおり運転と変わらない行為です。どうしても数字を述べたいのならば、必ず諸外国の数字と対比して、日本が如何に少ないのかという現況を公正に対比して発表すべきです。

国民は明るい前向きな報道を望んでいます。政府もそのような方向に業界を指導すべきだと思います。万が一オミクロン株に罹っても、大部分の人は無症状か軽症で済むのです。鼻水が出る、喉が痛い、そんな軽い症状で重病人扱いにして、社会生活から隔離しているのです。そんなに軽い症状のみで免疫がつくのなら、積極的に感染するようにして、集団免疫を得よう・・・というギャグすらでています。

現況では、患者と接触した人は、一般社会から隔離されます。鼻水が出ただけで、強制的に隔離されるのです。

私がお世話になっている訪問看護の事業所では、保育所で陽性者が出たために、同じ集団の子供の親である数人の看護師が職務に付けられないという異常な状態が続き、非常に困っていると聞きました。看護師はエッセンシャル・ワーカーであるだけに社会的影響は極めて大きいのです。保育所で他人の子供が鼻水を出すことが原因になって、看護師が集団欠勤したために医療崩壊を起こす・・・現実に行っている冗談のような真実です。

日本人にとって、コロナウイルス感染症は、インフルエンザ同様の重症率と死亡率しかない、第 5 種感染症に過ぎません。政府は早急にその決断をして、一日も早くコロナから決別して、正常な生活に戻すべきです。

職業奉仕の重要性

私たちがロータリークラブに入ったのは 1970 年でした。今から 52 年前の昔話になります。その頃は、どのクラブにもロータリーの深い知識を持った、明治生まれの怖いロータリアンがいて、クラブの長老として仕切っていました。

平成生まれの人が徐々に入会してくる現在、昭和初期の人がクラブの長老としてクラブを仕切る責任があるのですが、世の中がすっかり変わってしまいました。

昔の長老は知識も豊富で、手取り足取りしてロータリーの教育をし、若手はそれをよく聞いて勉強しましたが、今の長老は単に在籍年数が長いだけで教える力もなく、若手も長老にロータリーのことを聞くこともありません。それを良しとして、ロータリーを学ばずに徒に馬齢を重ねているのが現状です。私の経験からすると、ロータリーのことをある程度知って、ロータリー・ライフに興味を抱くのは、入会 5 年はかかるのに、入会 3 年未滿で退会するのは、初期の教育が悪いからだと思います。会員増強を重視する余り、不適格者を入会させるのも大きな原因です。

RI の方針が大きく転換して、ロータリアンもロータリークラブも一緒にして、ボランティアをする個人であり、団体であることを強制します。

RI はロータリークラブの連合体であるため、クラブを管理することはできますが、呱呱のロータリアンには RI の権限は及びません。

勉強不足のロータリアンはそのことが分からないために、ロータリアンはボランティア活動をする義務があると信じて、その活動に専念します。今やロータリークラブはボリア活動に専念する組織になりましたが、ロータリアンには RI の権限が及ばないことを知る必要があります。

それならばロータリアンは何をすればよいのでしょうか。ボランティア活動は誰でもできますし、その活動をすれば達成感に満ち溢れ、良い気分になります。正しくて、良い活動には違いありません。私も 1980 年代は留学生に対する活動、1990 年代以降は WCS や 3H 活動に没頭しました。しかし、ボランティア活動はロータリアンでなくとも、だれを誘ってでもできる活動です。

ロータリアンは更に上の活動をめざさなければならないのです。

それが職業奉仕の実践です。職業奉仕は理念を提唱しただけではだめで、その実践が不可欠です。

職業奉仕活動とはアーサー・フレデリック・シェルドンが提唱した理念に基づく活動です。シェルドンは自らが設立したシェルドン・スクールの活動指針として作った He profits most who service best というフレーズを、1910 年にロータリークラブ連合会の Business Method Committee の委員長になったときに、ロータリーのモットーとして提供しました。

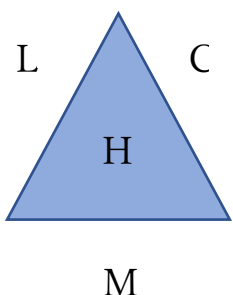
その言葉に秘められた意味は Do unto others as you would have them do unto you 道徳律と同じであり、自分が他人からしてもらいたいことを先に他人にしてあげなさいということです。この道徳律はマタイ伝に記載されているために、宗教だという人もいますが、普遍的に各国で使われているため、宗教ではなく哲学だと考えられます。

このモットーは事業で得た利益は、自らが独り占めするのではなく、その事業に関連した人と適正に再配分することが必要だと説いています。

自らは事業を通じて幸福に必要があります。自らが幸福になるために提示したのが幸福の三角形です。

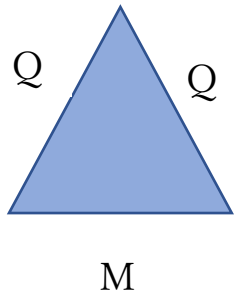
価値ある幸福の要素 「H」は「幸福」という概念を表します。「L」は「仲間からの愛情」「他人からの尊敬」を表します。「C」は「良心」「自尊心」を表します。「M」は、物質的な富や必需品や楽しみや贅沢等の象徴である「お金」を表します。

他人からの愛情や尊敬を受け、曇りのない良心と自尊心を持って、仲間との毎日、取引をし



た結果として物質的な富即ち、報酬または利益を得ることは、事業を営む人として、この上ない幸福と言うべきでしょう。奉仕哲学における利益という言葉には、お金とお金もたらす恩恵が含まれています

ロータリアンの奉仕は**価値ある奉仕**でなければなりません。



価値ある奉仕の要素 売るためには良い製品を作って適正な価格をつけることが最初のステップです。まず品質の高い製品を作ることが一番重要です。次のステップはいかにして十分な量を作るかです。第 3 のステップは、管理の状態即ち事業を営む人間の行動を正しく管理することです。「品質、量、管理の状態」という公式は、物質的な値を測定する方法、即ち物の価値を計る普遍的な基準なのです。

すべての事業所には正しい「質・量・管理の状態」が適用されなければなりません。良いセールスマンになろうと思えば、正しい「質・量・管理の状態」で商談を進めてください。

あなたが顧客に使っている言葉の質を確かめてください。顧客の心証を害するような発言はしていませんか。商談の長さは適切ですか。論理的に話していますか。要点をしぼって話していますか。顧客の前での態度はどうですか。くわえ煙草ではありませんか。セールスマンを雇っている会社は、そのスタッフによって評価されるのです。

貴方が製造業の良い事業主になろうと思えば、正しい「質・量・管理の状態」で企業経営を進めてください。自社の製品の質に自信がありますか。うっかりミスに備えた対策を講じていますか。常に研究開発を進めていますか。十分な製品を作るための設備投資を行っていますか。万一の場合に備えた対策を講じていますか。マン・パワーを開発するための社員教育を行っていますか。社員の意見を聞いて、それを反映する機会を設けていますか。

小売商の場合も同様に、正しい管理状態の下で、十分な量の良い商品を顧客に提供することです。商品の品質が高いこと。一度売った商品には責任を持つこと。適正な価格であること。商品の種類が豊富で、十分な量が確保できること。店主や従業員の態度が良いこと。商品知識があること。広告が適正であること。

こういうことが守られている店には、何度でも行きたくなるものです。

商売に成功する方法は、継続的に利益をもたらす顧客を確保することです。一見さんだけを相手にしては、継続的な事業の発展はあり得ません。リピーターとなって再三、店に訪れる常連客を確保することが、すべての事業所を繁栄させます。事業所の顧客と常連客の確保こそが、事業を発展させる鍵なのです。

以上が職業奉仕を実践する具体的な一例です。各業種でこの例を参考にして最適な方法を考えてください。そして、自分の事業所で取り入れると共に、業界の中で取り入れるように努力してください。

RI は職業奉仕を社会奉仕の中の一部として軽視しています。しかし職業奉仕は自分の事業を成功させるために最も重要な活動です。

経営者は自らの事業を発展させる義務があります。そのためには職業奉仕の実践が不可欠になってきます。

職業奉仕の受益者は自らです。更にその事業に関係するすべての人が受益者になります。従って事業を営む人にとって最も大切な奉仕は職業奉仕だといえます。

20 世紀の初頭、シカゴの町は金もうけを企む人が世界中から集まりました。金を儲けることがアメリカにきた理由であり、法の隙間をかい潜って金を儲けた者が、アメリカン・ドリームを達成した者として賞賛をあげました。殺人、強盗、詐欺そして行政や司法の私物化が横行する中で、あらゆる手段を使い、何でも有の商売がまかり通りました。計量やお釣りのごまかしは日常であり、広告は誇大、虚偽に満ちていました。

そんな商道德を是正して、真面目な事業を営んでいる人が適正な報酬を受けられるために考えられたのが職業奉仕です。アメリカの事業者にとっては、ハードルが高く、受け入れにくいものでしたが、これを自らの事業に取り入れると事業が発展することが分かりました。

それに反して、日本では古くから商道德が根付いていました。

二宮尊徳の報徳講がその原点であり、石田梅岩や近江商人の三方の得の志向は日本人の遺伝子の中に秘められていました。それが、職業奉仕の理念が、日本で容易に取り入れられ、且つ理解されるようになった最大の原因だと考えられます。

日本に古くからあった道徳的な思考を蘇らせてくれたのが、ロータリーの職業奉仕です。日本人の潜在意識を蘇らせてくれたこの奉仕理念を大切に、その実践に励もうではありませんか。

私のロータリー史 I

入会

私が芦屋ロータリークラブに入会したのは 1970 年 10 月でした。当時、芦屋クラブは創立 10 周年を迎えた直後でした。「芦屋クラブは二部上場の会社の人しか入れないが、若手の幹事候補として、特別に入会を許す」と言われました。入会してから、阪神電鉄、阪神交通社、ダスキン、加藤産業等数多くの社長が在籍していることが分かりました。

内規で職業分類が詳しく定められており、医師は内科、外科、その他の科各 1 名ずつとなっており、今回は耳鼻科の医師が退会したので、眼科の私が選ばれたとのことでした。

推薦者の 2 名の会員が、家庭訪問をしたり、3 ヶ月ほど付きっきりで、地区大会や他のクラブへのメーキャップに連れて行ってくれました。

私は、1 年半後に必ず回ってくる幹事の役割について大きな不安を感じて、特別代表としてクラブに訪れた神戸東ロータリークラブの安福武之助氏(1976 年ガバナー・福壽酒造社長)に助けを求めました。「何時でも訪ねて来なさい。」という同氏の言葉に甘えて、会社を訪れると、飴色の日本酒の古酒とともに、ロータリー談義に花が咲くとともに、徐々に不安が解消していきました。実にいろいろなことを教えていただきました。

「新しく勉強会を発足するので参加しなさい」と、言われて、関西ロータリー研究会に入りました。第一回のセミナーが御影の神戸銀行で開催され、小堀憲助氏が「ロータリー発生史」という題で講演しました。翌年、この会が分裂して、「千種会」になりましたが、私は関西ロータリー研究会に残りました。

1976 年には再び幹事に就任し、安福ガバナーが国際協議会に出発する際には、空港まで見送りに行きました。

世界社会奉仕 WCS

1988 年、2680 地区国際奉仕委員長に任命されました。私の地区では従来は、金銭による WCS しか行っていなかったもので、現地に行ってプロジェクトを探そうと考えて、事前に WCS プロジェクト交換表から 10 ほどのプロジェクトを選んで、田中視郎 WCS 委員長(三木 RC)と共に、身近なフィリピンに行きました。

メイン・プロジェクトとして、マニラの最貧地区ナボタスにロータリー・センターを建設して、そこを拠点に今後長期スパンで活動を続けることにしました。

ナボタスとケソンにはスモーク・マウンテンと呼ばれている巨大なごみの集積場があり、自然発火した煙が立ち込めていました。そこでごみ拾いして生活している人が大勢いました。その周辺では毎日 1~2 名の子どもが、餓死か病気で死んでおり、その死体が無造作に放置されていました。

1989 年、WCS 委員と共に現地を訪れ、8 件ほどのプロジェクトを選別して持ち帰り、実施クラブを決定しました。

✧ ネグロス島の深井戸掘り 2 件

✧ ユニバーシティ・クラブと共同白内障手術 私が個人的に参加して、最終的に約 50 人に施術しました。

✧ スープ&キッチン・フード・バンク

✧ 水浄化装置 2 件

1990 年にロータリー・センターが竣工して、それに伴って

✧ 無料医療検診

✧ 無料歯科検診

✧ 縫製工場 ミシン 20 台

✧ 養豚事業援助

◇ ピナツボ火山被害現地調査

地区の WCS 委員、毎日新聞記者が同行しました。帰国後、新聞の地方版に 5 回の連載記事が載りました。その後、毎年のように現地を訪れましたが、1996 年、私がガバナーに就任したため、2～3 年中止になりました。

2000 年からは石井良昌国際奉仕委員長(後に 2005 年ガバナー)もこのプロジェクトに加わりました。

2004 年、私は RI の識字率向上委員に任命されました。そこでフィリピンの小学校にこれを取り入れることを思いついて、オーストラリア・クイーンズランド RC のリチャード・ウオーカー委員長に申し入れました。同氏の著書や数多くの資料を頂いて、フィリピン 3800 地区に提示しました。同地区のノースベイ・イースト RC、ケソン・ノース RC 等がこのプロジェクトに関心をもってくれました。

フィリピンでは公用語は英語ですが、貧しい人たちはタガログ語しか話せません。英語が話せなければ、優位な職業に就くことはできません。そこで、小学校の義務教育に英語とタガログ語をバイリンガルで学ぶために CLE を取り入れようと考えたのです。

まず、ナボタス学区の 3 小学校の 1 年生の教師 21 名を養成することから始まり、順次拡大していきました。

2007 年から、その小学校の CLE を取り入れた授業が始まり、やがて、マニラ全市にその輪が広がっていきました。

そのころから私は体調を崩したため、石井バスターガバナーがこの役割を引き継いで、この事業を拡大して、最終的には、3-H プロジェクトになり、更に CLE に基づく教育をフィリピンが全国的に採用されるという、大事業になりました。

2013 年に最初の卒業生が旅立ちました。卒業生代表が流暢な英語で感謝の辞を述べました。CLE の効果は絶大なものがあり、英語に苦手な日本でも義務教育に採用すべきだと思いました。

留学生援助

1985 年に米山奨学生の丁玉麟(台湾・神戸大学経済学部修士課程)君のカウンセラーをすることになりました。彼は奥さんを台湾に残して単身日本に来ていたので、呼び寄せるようにいって、別棟の住宅を提供しました。

彼はコンピューターに堪能だったので、私もそれに挑戦して、1 年後には、コンピューター・ソフトウェアの会社(アシコン)を設立して、留学生にアルバイトの場を提供しました。当時は主に銀行の IT 化が進んだところで、銀行統廃合に伴うシステム転換の作業があふれていました。

大手商社に勤めていた小川氏が会社では扱わない小規模の仕事を回してくれました。

当時の留学生は、男性は料理店の皿洗い、女性は風俗店のアルバイトが主だったので、私の会社アシコンには真面目でコンピューターに堪能な留学生が大勢集まってきました。

眼科医院に隣接したコンタクトレンズ・眼鏡店の二階を改造して、留学生に提供して、収入の 20%を会社に、80%を留学生に分配しました。最盛期には 30 名ほどの留学生が働いていました。博士課程に進んだ丁君がこの会社の運営をすべて仕切ってくれました。私はゲーム・ソフトをいくつか作って、大手のソフト会社から販売されました。

1990 年頃には、コンピューターができない留学生も集まって来て、アシコンは情報収集の場に化し、連日賑っていました。

マスコミもこの事業を取り上げて、各紙が連日のように取材に訪れました。ロータリーの友にも掲載されました。

残念なことには、1995 年 1 月 17 日に起こった阪神大震災によって、全てが廃墟と化しました。眼科の診

療所もコンタクト・眼鏡店もアシコンも住居も廃埃と化しました。

震災当日は午前中は救急診療所で血まみれになって処置をし、夕刻から夜にかけて、警察学校に赴いて、山のように積まれた死体の死亡診断書を 60 通ほど書きました。

崩壊した我が家の整理には、連日のように留学生が訪れてくれ、瓦礫の撤去から水汲みまですべての作業をしてくれました。

なお、丁君はその後日本国籍を取得して、大手のコンピューター会社に入社して、ジャカルタ支店長になりました。さらに後日アシコンに通っていた中国とアメリカの留学生 2 名が日本に帰化して、現在も日本で働いています。

私のロータリー史 II

ロータリーの奉仕理念

私がロータリーの中で、最も真摯に取り組んだのが、ロータリーの奉仕の理念でした。これを巡っては多くの友を失うと共に、新しい友を多く得ました。私はロータリーの奉仕理念を知るためには、後日ロータリアンが書いた数多くの文献ではなく、最初に作られた一時文献を読む必要があると考えました。ロータリーに奉仕理念を提唱したのはアーサー・フレデリック・シェルドンですから、シェルドンの文献を探すために東京のロータリー文庫に通いましたが、無駄でした。

1996 年、2680 地区(兵庫県)のガバナーに就任しました。

2000 年に RI 本部の資料室を訪れて、シェルドンの文献を尋ねたところ、しばらく考えて、探し出してくれたのが Oren Arnold 著の Golden Strand でした。兼ねてから気になっていた文献でしたのでコピー・サービスをお願いして、帰国後、翻訳を開始しました。

文献には一次文献と二次文献があり、一次文献は本人が書いたものである一方、二次文献は、引用した本人の主観や憶測が入り、「参考文献」に値しない場合が数多くあります。Golden Strand がまさしく典型的な二次文献であり、ロータリーを面白おかしく書いていますが、数多くの間違いがあることが、翻訳の過程で分かりました。

千種会における小堀憲助氏の講演「ロータリー発生史」がこの The Golden Strand をそっくりそのまま、一字一句違わずに話していることが、私自身がこの本を翻訳したことから、判明しました。この本を教科書代わりに読んでいたために、非常に残念な思いでした。特に、シェルドンやフランク・コリンズの関する記述は間違いが多く、千種会で学んだロータリアンは、ロータリーの基本ともいえるべき、モットーや profit 等について、間違った知識を学び、未だにそれを信じている人が多いようです。千種会は確かに、ロータリーを学ぶ機会を与えてくれました。しかし、ロータリーの奉仕理念を正しく伝えてはおりません。私はそのことを小堀氏に直接伝えると共に、何冊かのシェルドンの文献を渡しましたが、まったく無視されました。

半年かかって翻訳を終了して、出版の準備をしていたところ、小堀氏と深川パスト・ガバナーから出版及ばずという圧力がかけられました。

前述のとおり、小堀氏が千種会で毎回講演している「ロータリー発生史」を公開することは、その種本を公開することに繋がります。かつて、神戸ロータリーの末積正氏がこの本の出版を試みた時にも、強い圧力がかけて、出版を中止したことが分かりました。

ポール・ハリスの文献にロータリーの奉仕理念を広めるためには、著作権という概念はない」という言葉があったことを理由にして、この本を「黄金の絆」というタイトルで 200 部印刷してロータリアンに贈呈しました。

その後も小堀氏は Sheldon Philosophy の一部を活用して長年ロータリーを解いてきました。

実は Sheldon Philosophy には「神の存在を無視する、裏の意味が秘められている。」のですが、それを知らない講義だったのです。

私はシェルドンを中心にして、数多くのロータリーの先人の文献を集めて、それを総合的に翻訳して、私のホームページ「ロータリーの源流」と講演を通じて情報提供をすることにしました。

シェルドンの文献探しは苦労の連続でした。結果的にインターネットによって、アメリカの古本店のネットワークを利用することになりました。シェルドンの文献の書籍名を指定して古本屋のネットに出すと、その本を持っている古本屋がすぐに価格を示して対応してくれます。

当初はシェルドンの本は買う人が稀らしく、一冊 2~5\$ 程度でした。どんどん発注して、最終的には彼の著

作約 50 冊がそろいました。はじめは 2\$ だった本が、徐々に値段が上がって、現在は 100\$ の値段がついている本もありますが、シェルドンの著作はほとんど揃ったので、一安心です。

シェルドンの出版物はシェルドン・スクールの教科書が主です。通信教育に使ったため、1 週間の講義を 1 冊に収めた、合計 20 巻程度の教科書が主ですが、全巻をまとめた豪華本もあります。

教科書の主なものには、Successful Selling 商売に成功する方法 1902 年発行、Sheldon Course シェルドン・コース 1902 年発行、The Science of Successful Salesmanship 成功する販売学 1903 年発行、The Science of Industrial Success 産業成功学 1906 年発行、The Science of Business Building 事業構築学 1910 年発行、The Art of Selling 販売術 1911 年発行、The Science of Business 経営学 1917 年発行などの文献があります。

Science of Business が大学生を対象にした教科書、Art of Business が全く初心者向けの教科書であることを除けば、その内容はほぼ同じです。

1903 年に発行された The Science of Successful Salesmanship 成功する販売学には、**he profits most who service best** というフレーズが使われてことから、このフレーズはシェルドン・スクールの理念であって、ロータリーのモットーとして特別に作られたものではないことが分かります。

Sheldon Course の各分冊の最後は **He profits most who serves best** で結ばれています。
シェルドンは 1908 年にロータリーに入会して、1910 年に全米ロータリークラブ連合会ができて *Business Method Committee* の委員長に就任して、ロータリーの奉仕理念全般を任されたとき、このフレーズをロータリー・モットーとして提供したのです。

Service and Conserves は唯一の単行本で、世界大恐慌に際して、Conserve すなわち保全の重要性を説き、モットーを He profits most who serves and conserves best に訂正してしますが、RI はこの訂正を採択していません。

1910 年スピーチ Rotary Philosophy の特異性

これらのシェルドンの文献の中で、異質なものが 1921 年大会のスピーチ Rotary Philosophy です。

この論文はシェルドンが退会を覚悟して語った、極めて重大な講演です。「本文」の最後に「結論」を述べるのは通常ですが、「結論」の後に「ナイアガラ」という講演が続きます。本文では経営学に基づく奉仕理念が詳しく語られ、従来からそうであった通り、「神」という言葉が敢えて使われていませんが、「ナイアガラ」では一変して、これでもか、これでもかと言うほど 13 回も「神」が使われます。しかし、**その全知全能の神も、自然の摂理には逆らえないという結論**となり、シェルドンが帰依していた**クリスチャン・サイエンスの教義**と一致するわけであって、プロテスタントが大多数を占めるロータリー、かつ、プロテスタントの牙城であるスコットランドのエジンバラでは、収拾のつかない爆弾的発言と見做されるわけです。

シェルドンがドイツ系であり、クリスチャン・サイエンスの信徒であること、シェルドンの経営学に基づく奉仕理念は、民主党が提唱した修正資本主義そのものであることを知らずに、シェルドンの奉仕理念を語ることは危険です。

なおこの講演の直後、シェルドンはシカゴクラブを退会して、ロータリーとは一線を画し、住居をキングストンに移します。

その後はシェルドン出版社が発行するクリスチャン・サイエンスの機関紙である The Business Philosopher を通じて、経営者向けの情報を発信しています。私がネットサーフィンをしていて、偶然見つけたこのサイトには 1913 年から 1922 年までのこの月刊誌がすべてそろっていました。

ロータリーに、最初に奉仕理念を提唱したのはシェルドンです。シェルドンはこの理念を「経営学に基づく奉仕理念」と述べ、「黄金律」を具体的に言い直した言葉が「he profits most who serves best」だと注釈をつ

けています。

さらに、月刊誌 The Business Philosopher 1920 年 12 月号には **The Meaning of Motto** **モットーの真意**という論文を掲載して、**シェルドン本人が「he profits most who serves best」の解説**をしており、**profit は金銭的利益であり、Golden Rule は “the rule for making gold” だと結論**付けています。

これに反してロータリーのもう一つのモットーである Service above self は誰が、何時、どんな意図で作ったのか分かりません。詠み人知らず、時知らずのフレーズが第一モットーとなってもてはやされ、詠み人も、時期も、その意図も詳しくわかっているフレーズが第二モットーとなつてと廃止の危機にあるのは不思議なことです。

ロータリーの奉仕理念を正しく知るためには、シェルドンの思考を正しく理解することだと考えて、シェルドンの研究に全力を傾注して、今日に至りました。

現在、シェルドン・スクールの教科書 7 巻 104 冊、国際大会講演 4 編、単行本 1 冊、月刊誌 The Business Philosopher 19 巻 228 冊を収集して、主要なものを翻訳しました。シェルドンの文献収集に関しては、世界一のコレクターであることを自負しております。なお、これらに文献のすべては「源流の会」<https://genryu.org> のホームページに収録しております。

シェルドンは事業主、顧客が共に利益を享受する、いわゆる修正資本主義に似た経営学に基づくサービス理念を提唱しました。道徳律はシェルドン・スクールの卒業生が集まって作ったものであり、シェルドン自身は、職業道徳や倫理については全く触れていません。純粋な経営学理論なのですが、この経営学理念に基づいた事業を実践すれば、結果として、多くの収益と高い職業倫理に繋がることになります。

シェルドンは自らが設立したシェルドン・スクールのモットーとして提唱した He profits most who serves best は、黄金律である Do unto others as you would have them do unto you を現代風に書き直したものであり、あなたが他人からしてもらいたいことを、先に他人にしてあげなさいということを説いたものだと言っています。

世の中のニーズに対応した奉仕をすれば、後から利益が何倍にもなって還元されることを説き、儲けを独り占めするのではなく、その事業に関係した人と利益を公正に再配分することであり、法さえ犯さなければ、金を儲けたものが成功者とみなされた当時のアメリカ人社会に大きな影響を及ぼしました。

アメリカ人は宗教的な迫害を受けてイギリスから渡米した人を除けば、世界各国から金を儲けるために、親兄弟や祖国を捨ててアメリカに渡った人が多く、彼らにとって商取引は騙しあいであり、騙すよりだまされたほうが悪いという風潮がまかり通っていました。特にシカゴは殺人、強盗、詐欺が横行し、更に行政も警察官もこれに加担するという犯罪の町でした。商取引をするときには、瞬きをするな、後ろを向くなというのが鉄則でした。商売人はいかに騙して、必要のない商品を買わすかを競争し、広告は、誇大か虚偽に満ち溢れていました。

そんな社会の中で、シェルドンは商売の神髄を経営学という学問にして、利他の心による職業奉仕を説きました。それを自分の事業に取り入れた人は、単なる商人ではなく、経営学を実践した実業人として大きな利益を得たのです。

シェルドンは自らの学校で、更にロータリーを通じて奉仕理念を広げていきました。

彼は多くのロータリアンが信奉していたプロテスタントではなく、当時は邪教ともいわれていたクリスチャンサイエンスの信者でした。その宗派では、「自然の摂理」Nature's Law が「神」よりも優位であったためか、講演や著作では敢えて「神」という言葉を使いませんでした。

Business philosopher 1922 年 12 月号でシェルドンは、自らの宗教観を次のように綴っています。

「宗教は人を神に連れ戻す。それは今日、私たちにとって何よりも必要なことである。商売や産業は汚いという面があるとすれば、なおさら宗教こそ事業にとって必要なこととなる。事業にふさわしい宗教こそ、悪に立ち向かえるのである。キリストは、わざわざ神に頼まなくても、時が来ればことは成就することを信じたに違いな

い。地上において、事業に必要なのは宗教であり、宗教にも事業が必要である。役に立つ知識は、それが活用されれば力に。力を動力に変えて、奉仕を実践すれば、それは活用されることになる。これが宗教の真実である。」

ロータリーにおける奉仕理念はアーサー・フレデリック・シェルドンが提唱したものであり、シェルドンの考え方を説くことが、ロータリーを説くことにつながると信じて、あらゆる会合でシェルドンの考え方を述べてきました。

日本全国の地区や分区から講演依頼が殺到して、講演数は 223 回に達しましたが、2015 年頃からは体調を崩したため、度々お断りしています。

なお、Sheldon Society として再三、世界親睦に登録しましたが、類似同好会があるという理由で否決されています。

世界親睦

1989 年に地区の世界親睦委員長になりました。この委員会はロータリアンの職業別趣味別の委員会であることを知り、私自身も「ロータリーの歴史と伝統の会」に入会しました。

1997 年に竹山元 RI 理事と懇意となり、彼がこの会の日本支部長をされていることを知りました。

1998 年に RI 世界親睦委員になりました。日本にも何か新しい世界親睦委員会を作りたいと考え、近場の国で何か共通の趣味はないかと考えたあげく、囲碁を思いつきました。囲碁ならば、日本、韓国、台湾で共通なルールなので、台湾と韓国の同期のガバナーに頼んだところ、快く応じてくれました。

RI への申請は困難を極めました。まず、「碁」とは何かを説明することから始まりました。「碁」が go と同じ発音であることから、どこに行くのかという最初の反応でした。「碁」は「囲碁」であり、日本、韓国、中国の何千年も前からのゲームであることを説得するまでに 1 年が掛かりました。その間に日本では 350 人、韓国では 150 人、台湾では 50 人の会員が集まりました。そして、1999 年に「go playing fellowship」として正式に承認を受けることができました。爾来、毎年、3 ケ国回り持ちで囲碁国際大会を開催して今日に至っています。

日本支部は新藤信之氏(東京立川こぶし)が会長、太田清文氏(東京)が幹事を務め、全国大会は 30 回に達しています。ちなみに、私は「五目並べ」しか知りません。当初の 3 年間は私が会長を勤めましたが、その後は韓国、台湾、日本と回り持ちで会長をお願いしております。

世は奇なもので幹事の太田氏の奥様が、「ロータリーの歴史と伝統の会」の竹山会長のお嬢様であったことから両氏と親しくなり、その後は毎年のロータリー国際大会のフェローシップのブースは、「ロータリーの歴史と伝統の会」と「囲碁同好会」は共同でブースを設営するのが習わしとなりました。

この世界親睦制度は、3 年ごとに RI 本部に活動内容を報告する義務があります。その後の会長からこの事務手続きが行われていることと思いますが、確認を要します。

私のロータリー史 Ⅲ

クラブ拡大

1997 年に芦屋RC の年末懇親会で大量の食中毒が起こって、その後、その処理を巡って、クラブを二分する大騒動が起こりました。詳細は避けませんが若手の退会者が続出しました。私は 1998 年に会長に就任しましたがその雰囲気は払拭することはできませんでした。退会者は口をそろえて、「ロータリーにはいたい、現在のクラブは嫌だ」と語りました。

私も退会したいと考えていましたが、これを機会に新しいクラブを作ることと考えました。同じ考えを示していた、寺内嘉一氏や村岡健三氏と相談しながら、退会者を含む新しい会員を集めました。

ガバナーから私が特別代表に委嘱されて、親クラブである芦屋クラブとの交渉に当たりました。当時は今と違って、親クラブの了承がなければ拡大はできませんでした。何回にもわたる交渉の結果、芦屋クラブからの移籍は 5 人以下、私も新クラブに移籍することで、賛同を得ることができました。

会員募集は思っていたよりも容易に進みました。芦屋クラブが上場会社を中心に大企業の経営者を集めていたので、新クラブは芦屋とその近辺に事業所を持つ人を中心にしてリクルートしました。画家、音楽家も入会しました。芦屋にはいろいろな職業人が集まっていると感じました。クラブ名はあえて東西南北を避けて、「芦屋川」としました。

結果的に 46 人が集まり、創立総会後に私が芦屋川ロータリーに移籍することで 47 名になりました。拡大を期待していた、大石神社の宮司である飯尾ガバナーは忠臣蔵の 47 士であると大いに満足しておられました。

阪神大震災に際しては、例会場であったホテル竹園は損壊しましたが、その場に集まってコップをたたいて点鐘として、例会を開催しました。週報も会員がパソコンで作って発行しました。

会員増強も順調に進んで、親クラブを抜いて、60 名近くまで増えました。

1996 年に私がガバナーに就任した際には、全会員が役割分担して私を支えてくれました。

2000 年以降、私に地区大会やセミナーの講演依頼が殺到しました。日曜日の会合では、夜の懇親会があり、その際の質疑応答のため深夜になるケースが多く、その際は月曜日帰省となり、遠方では、芦屋川クラブの月曜日の例会には間に合わない場合が多出しました。

私は私のペースで、それに対応して、ロータリーライフを楽しんでいましたが、クラブからクレームが来ました。それはクラブ例会の出席率が悪いということでした。私は「パスト・ガバナーにはロータリーの奉仕理念を広める責任がある。日本全国や台湾、韓国まで行って講演して、その際、芦屋川ロータリークラブの名前を広めていると反論しましたが、私が「ロータリー研究会」を通じて初期に教えた、「例会出席が再重要」を主張するクラブ理事会と対立する事態となりました。

私はいわゆる、80 オールを申請しましたが、それも否決されました。ロータリーの退会を考えましたが、数多くの講演依頼があり、源流の会のこともあって、ロータリーを辞めるわけにはいきません。30 年間連続出席を続けてきましたし、出席率は十分あります。2004 年の 11 月、明日は広島でロータリー研究会で規定審議会に関する講演をするという日に心筋梗塞で倒れて、緊急入院しました。何とか命を取りとめて、クラブに 80 オールによる出席免除を申請しましたが、再度、否決されました。

退院間近に尼崎西クラブに属する石井良昌君が見舞いに來たので、クラブ移籍のお願いをしたところ、クラブ理事会は快く受理してくれました。出席免除に、その後、さらに、新しい会員分類ではシニア会員として会費も減免されたので、現在は何のプレッシャーもなく、広域的、対外的ロータリー活動に専念することができるようになりました。

ウェブサイト

留学生のためのソフトウェア会社を設立しましたが、阪神大震災で消滅したことは既に述べたとおりです。シエルドンの奉仕理念は私の個人的なウェブサイトである「ロータリーの源流」を通じて情報発信をしていました。

1999年11月、東京で開催されたロータリー研究会で、ITについて話してほしいという依頼がありました。私のウェブサイトを見ていたロータリアンからの要請でした。..

「ロータリーとIT」という表題で今後のロータリーライフはITが必須になるという話を40分ほどしました。冒頭、「日常の通信手段としてメールかインターネットを使っている人は挙手してください」と質問したところ、挙手した人は参加者500人中10人ほどでした。

その日の夜、ロータリー研究会のために来日した次期RI会長フランク・デブリンの部屋に呼ばれて、日本のロータリーのIT化のために努力してほしいといわれ、日本全体のウェブサイトを統括するウェブ・マスターにインターネット責任者に任命されました。デブリン会長エレクトは自分の年度には全てはメールとインターネットを経由して発信すると語りました。

日本ロータリーのIT化の作業が始まりました。パスト・ガバナーのほとんどはITにうとかったので、誰も異論はなく、ことはスムーズに進みました。ガバナー会は2640地区の成川ガバナーがまとめてくれました。

私の個人的なサイト「源流の会」のコンテンツを中心にしてロータリー・ジャパン・ウェブRJWという・サイトを開設して、そこからRIの情報を流すことにしました。その情報を受け取るため、地区とクラブに情報伝達委員DICO、CICOを任命しました。

RIから毎日のようにメールで情報が送られてきました。私が取捨選択の上、翻訳してまとめ、それを横山義文氏(東京北)がhtml化し、中島閨一氏(佐世保北)がそれをウェブ上のあげてサイトを管理しました。その後、ポートランド近郊で分区代理を務めた東昭一氏(宝塚武庫川)が翻訳を引き受けてくれるようになって、私の負担は軽減しました。管理費のみがガバナー会から支給され、全員無償のボランティアでRJWは運営されました。

次年度のキング会長もRJWを使って情報伝達を行い、その後も、その慣習が続きました。

4年後に、思わぬところから、クレームが入りました。RI事務局の職員が情報伝達という仕事を失って危機感を感じたのが発端でした。

従来はRIのすべての情報はRI日本事務局を経由してガバナーに伝えられていました。それがすべてRJWを経由してインターネットとメールによって即日、情報が伝達されるので、日本事務局の存在に危機感を感じたわけです。

そこで日本支局の片岡暎子氏とロータリーの友の二神典子氏がRI理事の〇〇氏にRWJを廃止してその役割を日本支局とロータリーの友に移すよう頼んだというのが真相のようです。

どのような経緯があったかは分かりませんが、ガバナー会が突然、管理費の支払いを停止して、RJWの解散を要求してきました。全員ボランティアで管理していましたから、この措置には驚きました。一部の委員にはかなりの額のご苦労料(裏金)が払われたと聞いていますが、私を始め中枢の委員にはなにも支払われませんでした。もし、支払われても、受け取らなかったと思います。

RJWのドメインを強制的に奪って、ロータリーの友がインターネットのホームページを開設しましたが、そのコンテンツはRIから伝えられる情報のみで、会員が欲していた奉仕理念に関連した情報や古典的文献のアーカイブスは皆無になりました。

源流の会

ガバナー会を含む日本のロータリアンがすべてRJWを通じて情報を得ているのに、事務局員と理事によって、

日本のロータリーの IT 化が妨害されたことを腹立たしく感じました。しかし、IT に疎いほとんどのパストガバナーはこの事件に無関心でした。

しかし、数多くのロータリアンからウェブサイトを開いてほしいというメールが殺到しました。そこで私のウェブサイト「ロータリーの源流」のコンテンツを中心に、以前から好評だった「炉辺談話」を充実したホームページを作って、「源流の会」を発足しました。

RI の本部と交渉して、The Rotarian 誌のバック・ナンバーと国際大会議事録のすべてを入手することに成功しました。ロータリーの友もガバナー月信も創刊時から現在までのほとんど全部が揃いました。シェルドンの著作を始め、ロータリー創世記の文献のほとんど全部が揃っており、世界一のコレクションだと自我自賛しています。

私が集めた古い文献が中心のアーカイブスですが、最近の著作も収録しています。新しい文献については著作権の問題が発生することを恐れて、パスワードで保護して、2000 円の年会費を設けて、このアーカイブスを会員のみが閲覧できるようにしています。

浅田進氏(本庄南)小山楯夫氏(新潟)が庶務会計を、中島閨一氏(佐世保北)がウェブサイトの管理を行い、約 20 名のパストガバナーが顧問に就任し、約 300 名の会員を擁し、一日平均 100 名から 200 名が閲覧し、現在までのアクセス数 56 万 5 千回、コンテンツは画像を含めて約 3 万 5 千ファイルという日本ロータリー最大のウェブサイトになりました

私からの短いロータリー情報の発信は「炉辺談話」によって随時掲載しています。古いものは年度別の合本として収めていますが、全部で 563 回に達しました。

会員からの投稿は「ロータリーの広場」に収録しています。規定審議会の結果や COVID19 関連の資料、ZOOM によるセミナーは直接アクセスできるようにしてあります。過去の ZOOM によるセミナーはすべて動画として閲覧可能です。古い文献類、シェルドンの文献、ポールハリスや創立当時の古い会員の著書、現代の会員の著書、ロータリーに関連した画像など 3 万件を超えるアイテムは「アーカイブス」に収録されています。アーカイブスに入るためには ID とパスワードが必要になります。ID とパスワードは新年度の 8 月頃に全会員にお知らせします。是非、ご活用ください。

新型コロナウイルス COVID19 によってクラブ例会が中止になりました。そこで源流の会では毎月第 1 木曜日はテーマを定めたフォーラム、第 3 木曜日は講師によるセミナーと質疑応答を行っています。セミナー終了後の懇談会にも数多くの会員が参加して、ロータリー談義を楽しんでいます。

私自身は 2006 年から脊椎管狭窄のため車椅子の生活をしています。クラブの好意からシニア会員として出席免除になっていますが、最近の私にとっては、源流の会のズーム・セミナーが例会の代わりになっています。幸いなことに私は留学生の援助を通じて IT に堪能となりました。国際奉仕によって得たプロフィットだと感謝しています。